

## Ⅲ ヒアリング調査からみた企業の声

### 1 製造業

#### (1) 一般機械器具

##### 【景況感】

- ・中国向けの受注や半導体関連の受注が好調である。
- ・販売先から増産要請を受ける等、景況感は良好である。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で不況である。

##### 【売上高】

- ・広く受注が入っており工場稼働率が上昇、売上高も増加した。
- ・売上高は前期比20%増加したが、前年同期比では約15%減少した。
- ・売上高はあまり変わらない。

##### 【品目別の状況】

- ・半導体製造装置向けの受注は夏頃まで堅調である。
- ・中国向けの半導体関連の受注は活発である。

##### 【受注単価】

- ・受注単価はあまり変わらない。
- ・案件減少により価格競争が厳しくなり、受注単価が下がった。

##### 【原材料価格】

- ・原材料価格はほとんど変わらない。

##### 【その他諸経費】

- ・諸経費はあまり変わらない。
- ・電気代が上昇した。
- ・受注増加に伴い、残業代が増加した。

##### 【採算性】

- ・売上増加により収支黒字を確保した。
- ・生産状況が安定しており採算性も良くなった。
- ・売上減少の影響で採算性が悪化した。

##### 【設備投資】

- ・生産能力の増強を目的とした設備を導入した。
- ・売上低迷の影響で設備投資は見送った。

##### 【今後の見通し】

- ・半導体関連の受注も好調を維持する見込みであり、今後は良い方向に向かうとみている。
- ・景況感は上向きを継続するとみている。
- ・今後はどちらともいえない。

#### (2) 輸送用機械器具

##### 【景況感】

- ・好況である。
- ・徐々に生産数量が戻ってきており、景況感は普通である。
- ・廃業や休業等が発生しているという情報がある。

**【売上高】**

- ・新規品の量産が始まり、売上高は増加した。
- ・売上げは10%程度増加した。
- ・売上高は減少した。

**【受注単価】**

- ・受注単価はほとんど変わらない。

**【原材料価格】**

- ・ほとんど変わらない。
- ・原材料価格は上がった。

**【その他の諸費用】**

- ・人員減少により人件費が5%程度減少した。
- ・受注増加に伴い人件費が増加した。
- ・諸経費はほとんど変わらない。

**【採算性】**

- ・売上増加と人件費の減少により採算性は良くなった。
- ・売上減少が要因で採算性は悪化した。
- ・売上げは増加したものの、人件費の増加もあったため採算性はあまり変わらない。

**【設備投資】**

- ・設備投資は実施しなかった。
- ・老朽設備の入替や、新製品対応、生産合理化を目的とした設備投資を実施した。

**【今後の見通し】**

- ・先行きは良い方向に向かうとみている。
- ・半導体不足による自動車の生産減により、先行きは悪い方向に向かうとみている。

**(3) 電気機械器具****【景況感】**

- ・景況感は普通である。
- ・不況である。

**【売上高】**

- ・売上高はほとんど変わらない。
- ・売上高は減少した。
- ・売上高は増加した。

**【原材料価格】**

- ・原材料価格はほとんど変わらない。
- ・原材料価格は上昇した。

**【その他の諸経費】**

- ・人件費が前年同期比で上昇した。
- ・経費が増加している。
- ・電気代が引き続き減少している。

**【採算性】**

- ・採算性は悪くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。
- ・売上げの増加と諸経費の減少が寄与し、採算性は良くなった。

**【設備投資】**

- ・実施しなかった。
- ・製造能力の増強に資する投資を実施した。

**【今後の見通し】**

- ・見通しはどちらともいえない。
- ・先行きは悪い方向に向かい、売上げも減少するとみている。
- ・先行きは良い方向に向かうとみている。

**(4) 金属製品****【景況感】**

- ・不況である。
- ・廃業が増加している。
- ・景況感は普通である。

**【売上高】**

- ・売上高は減少した。
- ・売上高は前期比で5%増加した。

**【受注単価】**

- ・受注単価は変わっていない。
- ・受注単価は前期比も前年同期比も変わらなかった。

**【原材料価格】**

- ・原材料価格はあまり変わらなかった。
- ・原材料費が前期比で5%程度上昇した。

**【その他の諸費用】**

- ・輸送コストの上昇等により諸経費が増加した。
- ・その他諸経費はあまり変わらなかった。

**【採算性】**

- ・原材料費の上昇が影響し、採算性が前期比で数%程度悪化した。
- ・採算性は悪くなった。

**【設備投資】**

- ・設備投資は実施しなかった。

**【今後の見通し】**

- ・先行きは少し良くなるとの情報もあるが、どちらともいえない。
- ・今後は良い方向に向かうとみている。

**(5) プラスチック製品****【景況感】**

- ・好況である。
- ・廃業や休業が増えているという情報もあまりない。

**【売上高】**

- ・売上高はほとんど変わっていない。

**【受注単価】**

- ・受注単価はほとんど変わらない。

**【原材料価格】**

- ・原材料価格はあまり変わらない。

**【人件費】**

- ・派遣社員が契約終了に伴い減少しているため、人件費は減少している。
- ・人件費はほとんど変わらない。

**【採算性】**

- ・採算性はほとんど変わらない。

**【設備投資】**

- ・新たな受注を確保するための投資を実施する予定がある。
- ・工場の拡張を行っている。

**【今後の見通し】**

- ・先行きは良い方向に向かうとみている。
- ・売上げも前年同期比で増加するとみている。

**(6) 食料品製造****【業界の動向】**

- ・廃業が増加している。
- ・今後も廃業が増えていくとみている。

**【景況感】**

- ・景況感は普通である。
- ・巣籠もり需要もあり景況感は良好である。
- ・埼玉県食材がメディアで取り上げられたことで、一部商品で特需があった。

**【売上高】**

- ・売上高は増加した。
- ・巣籠もり需要があったため売上高は増加した。

**【受注単価】**

- ・受注単価はあまり変わらなかった。

**【原材料価格】**

- ・原材料価格は下がった。

**【人件費】**

- ・人件費は減少した。
- ・人件費はあまり変わらなかった。

**【採算性】**

- ・採算性の高いアイテムが貢献し、採算性は向上した。
- ・採算性はほとんど変わらない。

**【設備投資】**

- ・新工場を建設する。
- ・新製品向けの設備投資を実施する予定がある。

**【今後の見通し】**

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による巣籠もり需要はまだ続くとみている。
- ・先行きについてはどちらともいえない。

**(7) 銑鉄鋳物****【景況感】**

- ・不況である。
- ・自社の景況感は良好である。

**【売上高】**

- ・売上げは減少している。
- ・売上高は増加した。

**【受注単価】**

- ・ほとんど変わらない。

**【原材料価格】**

- ・原材料費は上昇した。
- ・特に変化はない。

**【人件費】**

- ・ほとんど変わらない。
- ・売上増加に伴い人件費も増加した。

**【設備投資】**

- ・設備投資は行わなかった。
- ・今後省人化を目的とした設備投資を実施する予定である。

**【今後の見通し】**

- ・先行きはどちらともいえない。
- ・今後良い方向に向かうとみている。

**(8) 印刷業****【景況感】**

- ・まだまだ不況感がある。
- ・不況である。
- ・緊急事態宣言の再発令で一気に悪化した。

**【売上高】**

- ・売上げは減少した。
- ・引き続き厳しい状況である。
- ・前年同期比で1～2割減少の見込みである。

**【受注単価】**

- ・受注が減少しているため、価格競争になりやすく懸念している。
- ・ほとんど変わらない。
- ・大量受注はほとんどなく、受注単価は下がった。

### 【原材料価格】

- ・ほとんど変わらない。
- ・一部インキが値上げした。
- ・コロナ禍で見直しを行い、下がったものもある。

### 【採算性】

- ・受注が減少しているため、採算は良くない。
- ・ほとんど変わらない。
- ・売上げは減少したが、コストが減ったため、採算性は良くなった。

### 【設備投資】

- ・検査機を更新した。
- ・少数ロットや省力化に対応した設備投資を計画している。

### 【今後の見通し】

- ・緊急事態宣言が終われば受注が動き出す気配はあるが、どちらともいえない。
- ・悪い方向に向かう。
- ・外出自粛により、イベント関係が中止となったことから広告関係は厳しい。今後はコロナ次第である。

## 2 小売業

### (1) 百貨店

#### 【景況感】

- ・不況である。
- ・景況感は依然として厳しい。
- ・コロナ禍による客数減少もあり、厳しい状態が続いている。

#### 【売上高】

- ・衣料品は厳しいが、食料品やリビング・家庭用品は健闘している。
- ・衣料品を中心に外出に関連する需要は厳しい。
- ・巣籠もり需要は続いており、おせちやバレンタイン関連は好調であった。
- ・食品は健闘しているが、伸び率が鈍化してきた。

#### 【諸経費】

- ・訴求のデジタル化を強化して、紙媒体の宣伝費を減少した。
- ・人件費は効率的な配置を行い、削減した。
- ・チラシの折込み数を見直し、経費を削減した。

#### 【採算性】

- ・衣料品など利幅のあるものは売れ行きが良くないため悪化した。
- ・売上げが苦戦しているため厳しい状況である。

#### 【今後の見通し】

- ・昨年は臨時休業しており、売上げは前年を上回りそうだが、不透明である。
- ・引き続き現在の状況が続くことが予想され、どちらともいえない。
- ・外出自粛傾向はまだ継続すると思われ、悪い方向に向かう。

### (2) スーパー

#### 【景況感】

- ・食品スーパーは内食需要の増加により好調を維持している。
- ・衣料品等を取り扱う総合スーパーは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で厳しい状況が続いている。

### 【売上高】

- ・来店客数及び客単価が上昇しており、売上高は前年同期比で約20%程度上昇した。
- ・生鮮三品は巣籠もり需要から引き続き伸長。特に大型パックが好調。
- ・飲食店向けの需要が減少している影響で、一部の鮮魚や青果に値下がりの傾向が見られた。
- ・食料品の売上げはおおむね横ばいだが、惣菜、パンは売上げが減少している。
- ・衣料品及び化粧品は外出自粛により需要が減少しており、厳しい状況が続いている。

### 【諸経費】

- ・3密を回避するために広告宣伝を見直し、経費が減少した。
- ・諸経費は増加している。

### 【採算性】

- ・食料品が好調のため、採算性は良くなった。
- ・採算性はあまり変わらなかった。
- ・採算性は悪化した。

### 【今後の見通し】

- ・前年の内食需要及び衛生用品需要が急増した反動減があると見込んでいる。
- ・今後も厳しい状況が続くと見込んでいる。

## (3) 商店街

### 【景況感】

- ・イベント関係が中止となり、不況である。
- ・不況である。

### 【来街者】

- ・ほとんど変わらない。
- ・イベントの中止や飲食店の休業により、来街者は減少した。

### 【個店の状況】

- ・日中のみ営業している飲食店や小売店も状況は厳しい。
- ・飲食店が特に厳しい。
- ・各店舗横のつながりが減った。

### 【商店街としての取組】

- ・計画はしているが、緊急事態宣言中はイベントの実施は難しい。
- ・頑張る商店街のポスターを作成し、投票キャンペーンも実施した。
- ・来期以降のイベントなどは未定である。

### 【今後の見通し】

- ・ワクチンの接種も進んでいるが、今後の見通しはどちらともいえない。
- ・コロナ次第であり、どちらともいえない。
- ・現状では、悪い方向に向かうと思う。

## 3 情報サービス業

### 【景況感】

- ・テレワーク需要や電子化の動きが活発になっており、良い風向きといえる。
- ・景況感は普通である。
- ・景況感は良好である。

**【売上高】**

- ・公共団体だけでなく、民間企業を含めて上期に停滞していた案件が再開され、業績が戻ってきている。
- ・売上高自体は前期比で減少したが、新型コロナウイルスの影響と前期にあった特需の反動の2つの要因がある。
- ・売上高は増えた。

**【製品価格】**

- ・受注単価はほとんど変わらない。
- ・カスタマイズ製品のため、ほとんど変わらない。

**【採算性】**

- ・感染症対策費用の増加があったが、交通費など減少した経費もあるため、全体的な採算性は変わらなかった。
- ・在宅と出勤を合わせた勤務体制に社内全体が慣れてきたため、事務所閉鎖等にならなければ作業効率はさほど落ちない。
- ・採算性は良くなった。

**【設備投資】**

- ・データセンター事業の拡大を行う。
- ・テレワークのための設備購入等や、感染症対策による環境改善等などを行う。

**【今後の見通し】**

- ・景況感の良い方向に向かうとみている。
- ・新型コロナウイルスのワクチン接種が広まり、社会活動の自粛が緩められていけば経済活動も活発になると思われる。
- ・今後の見通しはどちらともいえない。

## 4 サービス業（旅行業）

**【業界の動向】**

- ・緊急事態宣言下であり非常に厳しい状況が続いている。
- ・廃業も少しずつ増えている。
- ・借入金で事業継続している事業者も多く、需要回復が遅れると更に厳しい状況になるとみている。

**【景況感】**

- ・不況である。

**【受注高】**

- ・前年同期比で大きく減少した。

**【受注価格】**

- ・少ない受注の取り合いとなっており、受注価格は下がった。

**【採算性】**

- ・人員削減をはじめとしたコスト削減は行っているが、受注減少の影響により採算性は悪化している。

**【設備投資】**

- ・実施していない。



### 【今後の見通し】

- ・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種も進んでくると徐々に良くなるとみている。
- ・受注高も前年同期よりは回復するとみている。

## 5 建設業

### 【業界の動向】

- ・倒産や廃業等で大きな動きは特にみられない。
- ・1月の受注は堅調であったが、2月に入ってやや減少傾向となった。
- ・県南地域の受注状況は順調である。
- ・テレワークの普及により、主に都内から埼玉県内への転入者が増えているように感じている。

### 【景況感】

- ・景況感は普通である。

### 【受注高】

- ・受注は10%程度の増加を見込んでいる。
- ・受注は前期比、前年同期比ともに増加した。

### 【受注価格】

- ・受注単価はほとんど変わらない。

### 【資材価格】

- ・鋼材の価格が前年比上昇した。
- ・資材価格はあまり変わらない。

### 【採算性】

- ・売上増加により採算性も良くなった。
- ・採算性は前期比で横ばい、前年同期比では良くなった。

### 【今後の見通し】

- ・新型コロナウイルス感染症の動向次第であり、先行きはどちらともいえない。